

津ライスニュース 令和5年産第1報

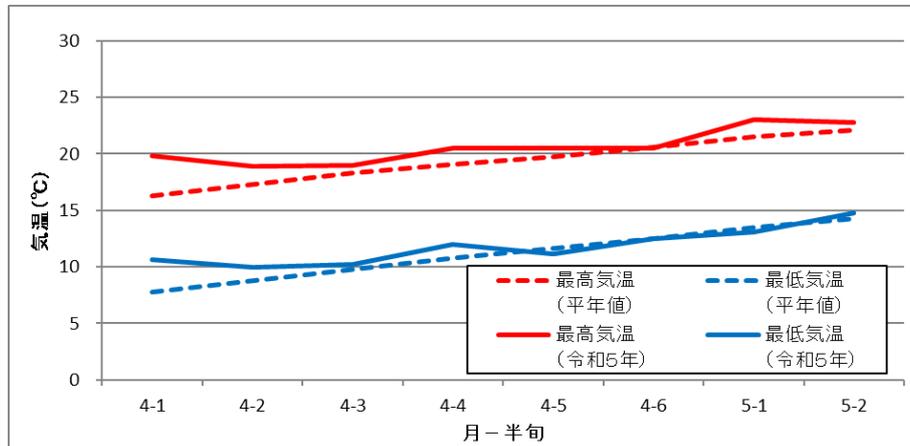
令和5年5月19日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

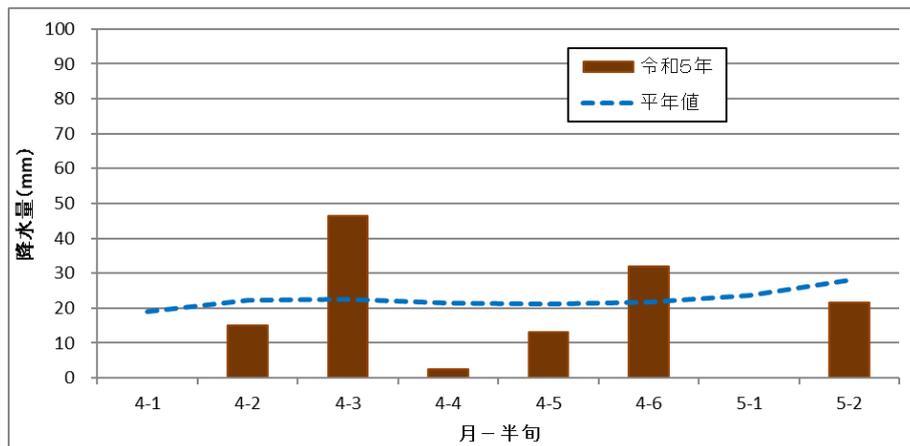
<気温>

4月下旬に一時気温が低くなりましたが、全体として気温は高く推移しました。



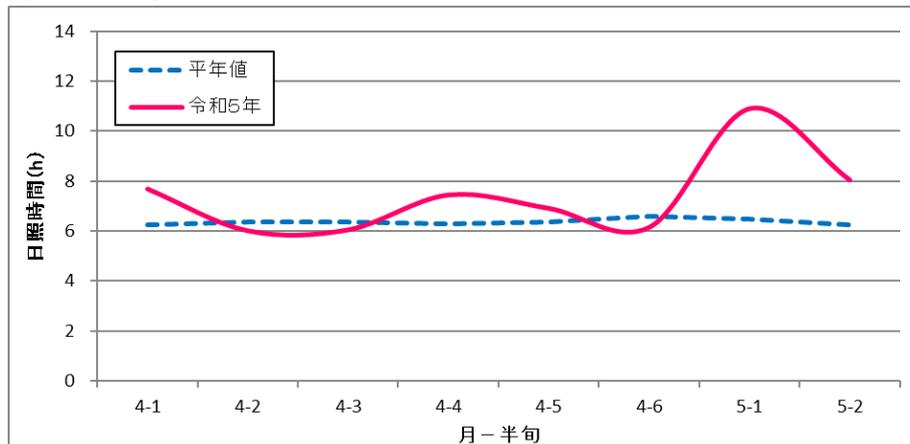
<降水量>

4月中旬から下旬にまとまった降雨が4日程度ありましたが、平年より降雨は少なくなりました。



<日照時間>

4月上旬は、日照時間が低く推移しましたが、5月上旬は、降雨が少なく日照時間が多く推移しました。



生育の概況

育苗期間中は、気温が高い日が続いたため、一部で草丈が高い苗が見られました。また、気温の上昇によりヤケ、ムレ、立ち枯れ病等が見られました。

田植え作業は、4月第4四半旬から5月第1四半旬が中心となりましたが、一部で代掻き作業の遅れによる田植えの遅れがありました。

4月下旬から5月上旬に風が強い日があり、一部で植え傷みが発生しています。活着までは深水、活着後は浅水にして生育の回復を図りましょう。

病虫害の発生状況と対策

<スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)>

令和4年度は発生が多い年でした。令和4年12月から令和5年3月にかけて気温が概ね高く推移したため、スクミリンゴガイの越冬率は平年並みから多いと推測されます。

5月の気温が高めで推移したことから、スクミリンゴガイの活動が活発となっています。今後も移植後の水稻が被害を受ける可能性が高まりますので、以下のことに注意して管理を行いましょ。

- 1) 薬剤による防除は、貝の活動を**確認してから**行いましょう。
- 2) 散布適期は、イネの被害が大きい移植後3週間までです。
- 3) 田面の水が深い部分に集まる習性があるため、**浅水で管理すると被害が少なくなります。**
- 4) 入水口に貝が通れない大きさの目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。また、**貝を捕殺し、卵塊は水面に落としましょう。**
- 5) 既に発生が多い水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。

<いもち病>

今後、いもち病発生の適温(25~28℃)となる時期を迎えます。降雨が2日以上続き、最低気温が17℃以上となると、約1週間の潜伏期間をおいて発病します。今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めには**場外へ取り除きましょ。**
- ・いもち病の初発の**早期発見と適期防除に努めましょ。**

今後の栽培管理

<中干し>

中干し開始は移植後35日後頃で、**葉色が濃く茎数が確保できたほ場**(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分げつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょ。

5月連休までに植えたところでは、6月に入れば、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われましょが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)、土壌条件(=粘質土で強め、砂質土で弱め)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとも水管理が楽になります。